



日本プロ野球選手会
社団35周年・組合30周年記念感謝祭より
提供：日本プロ野球選手会



連合メーデー
キャッチボールクリニックを開催

労働組合「日本プロ野球選手会」結成30周年

特別対談

連合会長
神津里季生
「こうじりきお」

「もりたけひと」
森忠仁
日本プロ野球選手会事務局長

日本のプロ野球を守ったものは？ そこに労働組合の原点がある

日本プロ野球選手会は、もともと歴史ある「個人事業主」からなる労働組合。その本領が発揮されたのは、2004年の球界再編問題だ。選手会は、一方的な球団合併決定に対し、ストライキを決行して12球団・2リーグ制を守り抜いた。連合はその行動を支援して以来、連合メーデーへの参加や、東日本大震災ボランティア活動における協力など、連携を重ねてきた。昨年、選手会は結成30周年を迎えた。森忠仁新事務局長と神津会長が、労働組合の原点について語り合った。

労働組合「プロ野球選手会」結成の原点

「昨年、選手会は結成30周年を迎えられました。その直前、松原前事務局長が急逝されたことは本当に残念でした。」

森 私自身も、まさかこんな形で事務局長の重責を引き継ぐとは思ってもみませんでした。結成30周年をいちばん楽しみにしていたのは、松原さんでしたから。

神津 本当に残念です。私が松原さんと初めてお会いしたのは、20年ほど前になります。実は第4代の正田耕三選手会長は、社会人野球の新日鐵広畑(当時)出身で、私はマネージャーとして2年間寝食を共にした仲間なんです。その頃、幹事をしてきたある勉強会でプロ野球選手会の話が聞きたいと正田会長にお願いし、一緒に松原事務局長にも講師として来ていただきました。私自身、多少なりとも野球に関わり、大のプロ野球ファンであると同時に、労働運動に身を投じた者として、そのお話しに強い関心を持ちました。

森 東京都労働委員会の認定を受

球界再編問題と103日間の闘い

「選手会事務局に入られたのは？」

森 2000年です。私は1998年に阪神に入団し6年間在籍しました。退団して会社勤めをしていた頃、松原さんに声をかけていただきました。当時はフリーエージェント(F.A)制の獲得、最低年俸、追加報酬額引き上げの実現など、今思えば、選手会として一つの転機を迎えていた時期でした。

神津 球界再編問題などもあり、その時期は特に大変な思いをされたと思います。選手の皆さんも、野球をしながら労働組合としての活動もしなければならぬ。

森 1998年に、第5代選手会長に就任した古田敦也さんは、プロ野球界全体のために選手会は何をすべきかという問題意識を強く持っていました。翌年12月には「プロ野球の明日を考える会」というシンポジウムを開催したのですが、その中で野茂選手から衝撃的な発言があったんです。「僕がメジャーに行くとき、日本の選手会は何もしてくれなかった。選手が一人で

事務局長の山口恭一さんは、退団金共済制度の整備に取り組みむ一方、12球団をまわって、選手生活の短いプロ野球において労働組合の存在がいかに大切かを説いてまわりました。選手の要望をまとめ、対等な立場で球団と交渉するには労働組合しかないんだと。村田兆治さんたちも陰ながら協力し、「労働組合」の発足に至りました。

神津 労働条件は労使が対等な立場で決定するものですが、一人ひとりの労働者は弱いから、団結して労働条件の向上に取り組み。まさに労働組合の原点ですね。

森 はい。選手全員が組合結成に賛同したのは、球団と選手の関係があまりにもフェアでなかったからです。当時、「野球協約」に基づく統一契約書によって、一度契約したら、その球団に保留され続ける状況がありました。年俸も、よほどの主力選手でなければ、一方的に提示されるだけ。初代の中畑清会長、落合博満・梨田昌孝副会長は、まず選手全員に労働組合の意義を説いてまわりました。選手会を通して選手の要望を球団側や機構側に伝えられる。選手会が選

手の権利や生活を守るから安心してプレーに専念できると。

神津 それは大切なことですね。どんな労働組合でも、一人ひとりの組合員が「自分たちの問題だ」と思えるかどうかで、組織の力量が大きく違ってきます。

森 そう思い、まずは4つの基本的な待遇改善に取り組みました。最低年俸の引き上げ、統一契約書の見直し、オフシーズンの確立、そして球場の安全対策です。特に地方の球場ではラバーフェンスが設置されていないところが多く、重大事故につながることから早急な対応を求め、ダゲアウトのエアコンも設置させました。

神津 そういう地道な活動をトップクラスの選手がリーダーシップをとって進める。交渉で優位に立てる主力選手が、若い選手や下積み選手のために活動する。非常に象徴的なあり方だと思えます。

森 確かに簡単にクビを切れない人が矢面に立たないと、立場の弱い選手を守れない。それを自覚してみんな役員を引き受けてくれます。それでも矢面に立つたことで不利益な扱いを受けるケースもありました。



森 忠仁

もり・ただひと
日本プロ野球選手会事務局長

1981年、千葉商高から阪神タイガースに入団。
2000年日本プロ野球選手会事務局に入局。



悩んでいるときに、力になるのが選手会の役割。何かを打破するには団結して行動しなければいけないのに、今のままだと組合が弱くて対等な立場にならない」と。

神津 野茂選手自身、海外への道を切り拓き、世の中を変えていった方ですから、そう言われては労働組合として忸怩たるものがありますね。

森 この発言が選手会の転機になりました。古田会長も松原事務局長も、その言葉を受け止めて、以来、対話を重視し、選手を一人にさせないという強い意識をもって活動するようになったんです。

神津 「一人にさせない、みんなで助け合う」は、まさに労働運動の原点です。皆さんの取り組みは、その後大きな感動を呼びました。

と選手は対等なパートナー。しっかりと口を出していくのが選手会の役割だと思っています。

神津 実際、東日本大震災が起きた2011年の開幕問題やWBC (World Baseball Classic) 出場問題でも、選手会は大きな存在感を示していました。

森 大震災のとき、球団側は西日本を中心に予定通り開幕しようとしていました。しかし、新井貴浩選手会長は、楽天選手会から深刻な被災状況の報告を受け、開幕は困難と判断し、コミッショナーに談判したんです。新井会長のリーダーシップはその後のWBC出場問題でも力を発揮しました。

神津 「社団35周年・組合30周年記念感謝祭」で歴代選手会長が語る30年の歩みを、現役選手の皆さん



神津里季生

こうづ・りきお
連合会長

—松原前事務局長から受け継ぎつつ、これから力を入れたいことは？

夢が持てる 魅力あるプロ野球界へ

森 毎年2月にキャンプをまわって新人研修をしています。最近10年以上前のストライキを知らない選手が増えているんです。先輩たちが何を求め、どう行動したのか、しっかりと語り継いでいかなければと思っています。

森 シーズン中の6月13日、近鉄・オリックス合併というスクープ記事が出て、本当に驚きました。選手会は、単に球団数が減るとプレーする機会が減るからというところで、合併に反対したわけではありません。どの球団にも長年のファンがいて、支えてくれるスタッフがいる。それを簡単につぶしていいのか。せめて1年間あらゆる手を尽くして存続の道を探るべきではないかと訴えたんです。

神津 球団合併という重要なことを、選手会との話し合いもないまま、そして球団維持の努力が何もなされないまま、一方的に決めていいのかと…。

森 球団が合併するとなれば、私たちがしっかりと受け止められたとお聞きしています。安全対策に始まり、生活保障、経営対策、産業対策と、選手と対話し思いを汲みながら着実に前進してきた30年に、労働組合の進化の歴史が凝縮されています。

森 松原さんは、とにかく寸暇を惜しんでいろいろな人に会い、いろいろなことを吸収されていた。そこは見習いたいですね。代理人制度や戦力外選手の合同トライアウトなど、大きな問題が一段落した中で、これから力を入れたいのは、選手の社会的地位の向上、セカンドキャリアの支援です。選手の多くは若くして現役を引退し、一般社会に出ていく。「野球しかできない」ではなくて、野球を極めたのだから、新たな世界でもやっていけるという自信と誇りをもって次に踏み出せる環境をつくらせていきたい、選択肢を増やしてあげたいと思っています。

神津 それは大変重要な取り組み課題ですね。野球を通して学んだことは、一般の社会でも活かせることが多い。そこは連合も連携できるかもしれません。さまざまな産業の労働組合が加盟しているし、全国47都道府県の地方連合会はさまざまななかたちでの就労支援に積極的に取り組んでいますから。

森 ありがとうございます。もう一つ、「野球の楽しさ」を伝える活動でも連携できるとうれし

数が減れば、プロ野球への門戸が狭まる。それはプロ野球の衰退を意味する。選手会は、将来の子どものために闘おう。選手会が最終的な合意までの103日間を闘い抜くことができたのは、その答えを全員で共有し、心を一つにできたからです。近鉄とオリックスだけでなく、すべての球団の選手が当事者意識を持っていたからです。日本プロ野球選手会が労働組合でなければ、12球団・2リーグ制は守れなかったと思います。

神津 自分たちの労働条件だけでなく、球界全体の発展のために行動する。それができるのが労働組合の重要な役割ですね。連合に加盟する労働組合も、労働条件交渉はきちんとやりながら、企業や産業全体の発展のための提言を続けています。

森 選手会の活動には、大義がなくてはいけない。ファンが球場に来てくれてこそ、自分たちがいる。ファンを大切に、個々の選手に寄り添い、そして球界全体の発展を考えていく。あの時、あるオーナーに「たかが選手ごときが口を出すな」と言われましたが、球団

ですね。連合メンバーでは、子どもキャッチボール教室やキャッチボールクラシックを開催していますが、カギは女性の参加です。最近女性ファンも球場を盛り上げてきていますし、キャッチボールクラシックも男女混合チームにするなど、女性が参加しやすい工夫をしていきたいですね。

神津 それはいいですね。連合には野球ファンが多いんです。これからも、いろいろな形で連携させていただきたいと思っています。—本日は、「メンバーシップだけでなく、関わるすべての人のために」という、労働組合としての活動の意義を再確認する良い機会となりました。ありがとうございます。

〔進行/山根木晴久 連合総合組織局長 合局長〕

